

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム  
平成 26 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	S2603
代表機関名	大阪大学
主担当研究者所属部局	薬学研究科
関連研究分野	薬理系薬学
主担当研究者	橋本 均
事業名	酸化ストレス仮説に基づく新規精神疾患創薬のための国際共同研究

**I これまでの事業実施により得られた成果**

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

<b>評 点 4</b>
<b>コメント</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画していた 6 名の派遣に対し、最終的に 300 日以上派遣した者が 5 名（准教授 1 名＝604 日、助教 3 名＝332 日、754 日、318 日、その他（固有研究員 1 名＝746 日）、300 日未満の者が 1 名（ポスドク 1 名＝129 日）となった。</li> <li>・計画どおり 8 名を招へいした。</li> <li>・若手研究者をほぼ計画どおり派遣し、共同研究成果を国際誌に発表している。招へい研究者は滞在期間は短いもののほぼ計画通りに招へいしている。担当研究者の共著論文ならびに発表は本プログラム期間内に大きく増加しており、国際研究ネットワークの強化は十分達成している。</li> </ul> <p>以上のことから、期待される成果は十分達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

<b>評 点 3</b>
<b>コメント</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣若手研究者と派遣先との共同研究の成果は多くの学術誌および国際学会で発表されており、成果をもとに新しい共同研究も開始されている点は評価できる。</li> <li>・実施報告書に記載があるように、本共同研究の中心的な目的となる PACAP シグナルを修飾する低分子化合物の同定では有用な知見が得られていない点は残念である。</li> </ul> <p>以上のことから、期待される成果は、概ね達成していると評価できる。</p>

**II 今後の展望**

<b>評 点 4</b>
<b>コメント</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣研究者はそれぞれ十分な業績を上げ、新たな研究も推進している。さらに海外の連携機関外との共同研究も多数開始されており、ネットワークのハブ化に成功している。</li> <li>・海外の連携機関には現在も派遣者を含む多数の日本人研究者が所属しており、連携機関出身の研究者とも研究を継続していることから、今後の国際研究ネットワークの継続・発展が期待される。</li> </ul>

以上のことから、今後の展望は高く評価できる。

総合的評価

評 点 4

コメント

・国際研究ネットワークの構築・強化に関しては、担当研究者の共著論文等多数の国際共著論文が本プログラム期間内に発表されていること、また派遣された若手研究者と派遣先との共同研究の成果も多く、学術誌および国際学会で発表されていることより、十分に強化されていると評価できる。  
・成果をもとに連携機関外との共同研究も多数開始されるなど、ネットワークのハブ化に成功している点も評価できる。

以上のことから、総合的に高く評価できる。

※評点に対する標語は下記の通り。

【Ⅰ（１）、（２）】

4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない

【Ⅱ、総合的評価】

4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない